

自ら企画した研修で、
多くの職員の成長を支える。



Shunsuke
Kasai

笠井俊介

広島高等裁判所事務局
人事課研修係長

平成 19 年採用

裁判所事務官

プロフィール

私は、平成19年4月に家庭裁判所調査官補として採用され、裁判所職員総合研修所での約2年間の養成課程の研修を経て、家庭裁判所調査官（以下「家裁調査官」といいます。）に任官しました。家裁調査官として、那覇家庭裁判所、岡山家庭裁判所津山支部で勤務した後、平成27年4月から、裁判所事務官として広島高等裁判所の人事課研修係長として勤務しています。



研修係の仕事の魅力

研修係は、広島高等裁判所管内の裁判所職員の研修に関する様々な事務を行います。その中でも、広島高等裁判所が行う研修の年間計画の策定と各種研修のカリキュラム等の企画及び実施が大きな仕事になります。

研修係に配属される前には、家裁調査官として、裁判所職員総合研修所での研修や、所属の家庭裁判所や高等裁判所で専門家を招いた講義や事例検討を行う研修を受けていました。その際、どの研修でも新たな知見が得られ、スキルアップすることを実感し、裁判所の研修がとても充実していると感じていました。研修係への配属が決まったときには、未経験の部署である事務局で働くことへの不安はありましたが、研修に関する事務に携われることを素直に楽しみだと思いました。

研修係において最初に手掛けた研修の企画は、裁判所書記官の人材育成に関するものでした。その企画を担当して気付いたことは、これまで家裁調査官として裁判所書記官の仕事は見てきましたが、その内実ほとんど知らないということでした。最初は「知らないのだから、企画は前年度とほとんど同じものにすればいいのではないか。」とも思いましたが、それでは、研修の面白さや効果を高めていくことができないのではないかと思います。直し、知らないことを強みとして、一からこの研修の目的を確認し、それを達成するための最適なカリキュラムを考え、同僚や上司、講師とも議論を重ねた結果、納得のいく企画を立案することができました。私の企画立案した研修が広島高等裁判所の一つの施策として形になること、研修参加者から感想や意見がダイレクトに伝わってくるのがとても新鮮でした。



家裁調査官の仕事とのつながり

家裁調査官は、行動科学の知見を土台に、事件記録等の情報から調査仮説を立て、家族や少年との面接で情報収集や働き掛けを行い、その結果を分析し、裁判官に意見を伝えます。その過程において、主任家裁調査官や同僚の家裁調査官とも議論します。そのような家裁調査官としての経験が今の研修係の仕事にも生きていると思います。



また、係長として、チームリーダーの役割を担っており、2人の係員と常にコミュニケーションをとりながら、これまでの事務の問題点を考え、より質の高い事務を目指して事務の改善や工夫に取り組んでいます。家裁調査官は、主任家裁調査官と同僚の家裁調査官のチーム（このチームを「組」と呼んでいます。）で、議論を通して質の高い調査を行っていますので、このような係長としての経験は、今後、再び家裁調査官として働くときに、組でのコミュニケーションを活性化させ、同僚や後輩の調査の質を向上させることに生かしていけるのではないかと思います、今から楽しみにしています。



受験を考えている皆さんへ

家裁調査官の仕事は、家庭裁判所の手続の中で、裁判官の適正な判断を支え、家庭裁判所を利用される方が自ら問題解決していくことを援助する「裏方」の仕事です。一方事務局の仕事も裁判陪席を人的・物的に支援する「裏方」と言えます。

私は、心理学を専攻して、悩みを抱える人を支援することに興味があって、家裁調査官を目指しました。事務局で働くことは想像していませんでしたが、実際に働いてみると、裁判所で働く様々な職員を支えることを実感し、大きなやりがいを感じています。また、研修の企画等を通して、家裁調査官が、裁判所内でその能力をより一層発揮することを期待されていることが実感できるようになりました。

心理学等の行動科学を専攻している方にとっては、法律を扱う裁判所で働くことに迷いを抱く方もいらっしゃるかもしれませんが、家裁調査官も含めて様々な立場で裁判所を支える仲間がいますので、心配は無用です。

皆さんが家庭裁判所調査官補として採用され、裁判所を、そして、家庭裁判所を利用される方々と一緒に支えていく日が来ることを、とても楽しみにしています。

